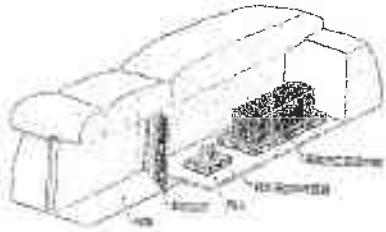
小笠原先生の奈良・古代史講座のご案内

主　催　奈良歴史遺産市民ネットワーク
事務局　〒630-8306　奈良市紀寺町８８３－４
TEL・fax　０７４２－２３－３９３４　小宮みち江

講　師　**小笠原好彦氏**　滋賀大学名誉教授・文化財保存全国協議会常任委員

講座会場　奈良県教育会館　開講13時30分（開場13時）（奈良県文化会館西隣　近鉄奈良駅より徒歩５分）



参加資料代　500円

11月11日（火）《藤原宮・京の中軸線上に築造された天武・持統陵とその歴史的背景》

1969年、藤原宮跡を通る橿原バイパスの事前発掘の成果をもとに、岸俊男氏によって藤原宮・京が復元されました。しかも、岸氏は、藤原宮・京の中軸線上の南に天武・持統陵が築造されていることを明らかにしました。この天武陵は、飛鳥で政権を担った天皇として、初めて天皇陵が飛鳥に築造（688年）されたものです。この二つの課題を考えてみます。

12月9日（火）《飛鳥の小山田古墳の発掘とその被葬者》

飛鳥の南端部から１９８９年に見つかった小山田古墳は、８０m規模の大きな飛鳥時代に築造された方墳です。墳丘からは階段状積石が検出されています。この古墳の位置と墳丘の発掘成果からみて、被葬者を舒明天皇とする有力説を検討してみます。

2026年

1月13日（火）《中国の漢代・唐代の市と交易》

前漢時代の長安には、九の「市」があり、また地方都市の洛陽、四川の成都などにも市がありました。成都からは常設市を描いた画像塼が複数出土しています。また、その後の唐代の長安には、東市と西市がありました。これらの市は、平城京の東・西市のモデルとなったものです。円仁の『日唐求法巡行記』に記された長安の東市であった火災のことも紹介します。

※気象警報等により、会場が閉鎖される場合があります　ご了承ください

☆☆☆　事前の申し込みは要りません。どなたでも参加できます　☆☆☆